



注目ポイント

- ✓先週、高市首相の円安容認と受け止められる発言が、衆院選後の積極財政観測と結びつき、大幅に円安ドル高が進展。国内金利は金銀や仮想通貨の急落に加えて、週後半は米金利の低下を受け、リスク回避の債券買いから小幅低下。そして、日経平均は米ハイテク株安で急落して始まったが、米株反発と円安を追い風に最高値を更新。その後は米ハイテク株の軟調さが上値を抑える一方、衆院選を控えた短期筋の買い戻しが下支えし、もみ合いの展開となった。
- ✓与党の大勝という結果で終わった衆院選結果を受けて、今週の金融市場では、ドル円は積極財政期待が強まり、円安基調が続く見通し。一方で国内金利は、過度に財政拡張的な野党政策を取り込む必要がなくなるとの見方が金利低下圧力となるが、投資家による債券の損失確定売りが金利上昇圧力となり、もみ合いを見込む。そして、日経平均は先週末の米株急騰に加え、高市政権の政策期待から上値を試す展開となろう。

(門倉英司)

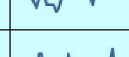
①マーケット動向(実績データ)

2026年2月2日

~

2026年2月6日

市場・指標			2月2日 ~ 2月6日		2月6日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均 (円)	54,783	52,655	54,254	+931	+1.7%	
	米国	NYダウ (ドル)	50,170	48,674	50,116	+1,223	+2.5%	
	ドイツ	DAX (ポイント)	25,099	24,273	24,721	+183	+0.7%	

市場・指標			2月2日 ~ 2月6日		2月6日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	2.270	2.190	2.225	-0.015	
	 米国	10年 (%)	4.30	4.16	4.21	-0.03	
	 ドイツ	10年 (%)	2.90	2.81	2.84	+0.00	

市場・指標		2月2日 ～ 2月6日		2月6日	前週末比	トレンド (直近2か月)
		高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)	157.34	154.55	157.22	+2.44	
	 ユーロ (円)	185.81	183.14	185.74	+2.31	
	 豪ドル (円)	110.38	106.86	110.23	+2.47	

市場・指標			2月2日 ~ 2月6日		2月6日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リト (ポイント)	2,015	1,976	1,995	+17	+0.8%	
	米国	NY原油 (ドル)	65.53	61.12	63.55	-1.7	-2.5%	
		NY金 (ドル)	5,114	4,423	4,980	+235	+4.9%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2026年2月9日 ~ 2026年2月13日



株式

上値を試す展開か

日経平均
【予想レンジ】 54,000 円 ~ 57,000 円

- 先週の日経平均は上昇。前週の米ハイテク株安を受けて、急落でスタートした日経平均だったが、3日には米株の反発や円安進行を背景に大幅反発となり最高値を更新した。ただし、その後は軟調な米ハイテク株が上値を抑える中、円安を好感した自動車株や衆院選を控えた短期筋の買い戻しが下支えするというもみ合いの展開が続いた。
- 今週の日経平均は、上値を試す展開か。衆院選で与党が大勝したことで、高市政権への政策期待が強まろう。先週末の米国市場で、AI関連銘柄の軟調な動きが一服し、米株が急騰したことも買い安心感に。台湾TSMCの月次売上(10日)やソフトバンクGの決算(12日)も、好調さが確認できれば、さらに株価の支援材料となる見通し。



金利 (国債)

もみ合いの展開か

10年国債利回り
【予想レンジ】 2.170 % ~ 2.280 %

- 先週の国内金利は小幅低下。前週末に海外で金銀や仮想通貨が急落したことが投資家心理を悪化させ、債券買い意欲が旺盛だった。週後半には、米金利低下も手伝い10年国債利回りは2.19%まで低下する場面も見られた。一方で円安進行が日銀の早期利上げを後押しするとの見方は根強く、さらには日銀の増審議委員のタカ派的な発言も伝わり、2.225%まで戻して終了した。
- 今週の国内金利はもみ合いか。衆院選で与党が大勝したことで、過度に財政拡張的な野党政策を取り込む必要がなくなるとの見方が金利低下圧力となろう。一方で、日銀の早期利上げ観測や投資家による株式益を財源とした債券の損失確定売りが金利上昇圧力となることが見込まれ、もみ合いの展開となろう。



為替 (米ドル)

円安基調継続

米ドル/円
【予想レンジ】 156.50 円 ~ 159.00 円

- 先週のドル円は、大幅に円安ドル高が進展。米国の景況感指数の改善や米株高がドル買いを促した。また、国内では、高市首相の円安容認と受け止められる発言が円売り圧力を一段と強め、さらには与党が大幅に議席を伸ばすとの選挙戦の報道も財政拡張期待を高め、円安基調を後押しした。
- 今週のドル円は、円安が進展か。衆院選で与党が大勝したことで高市政権の積極財政への期待が強まり、円売り基調が続くだろう。一方、米雇用統計(11日)で労働市場の軟化が確認されれば、ドルの上値は抑えられる可能性も。また、日銀タカ派とされる田村審議委員の講演(13日)での発言が円売りを一定程度抑制する要因として意識される。



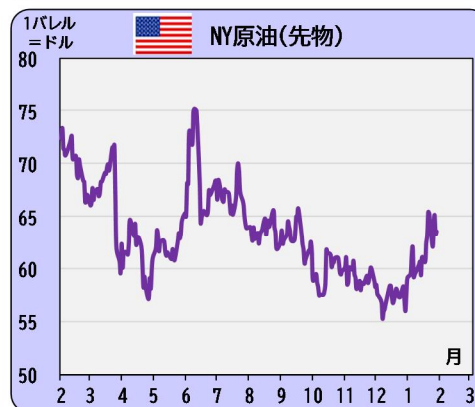
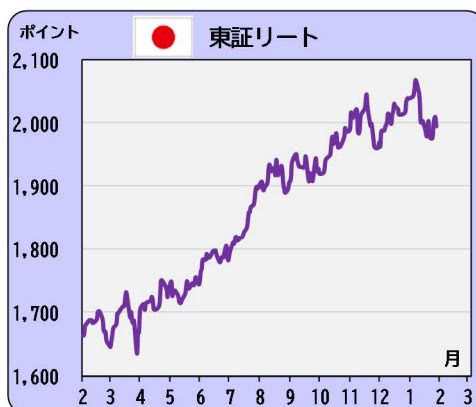
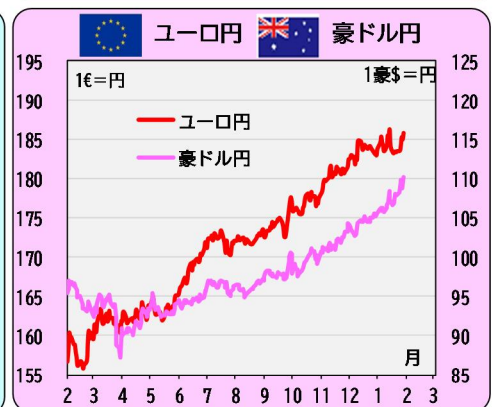
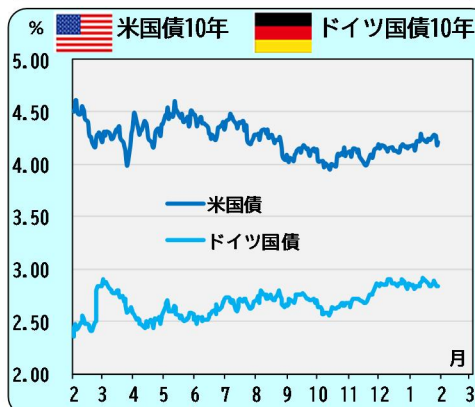
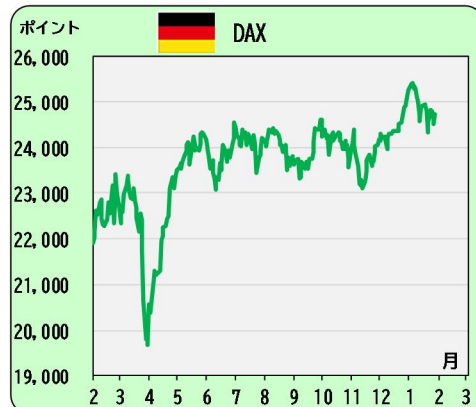
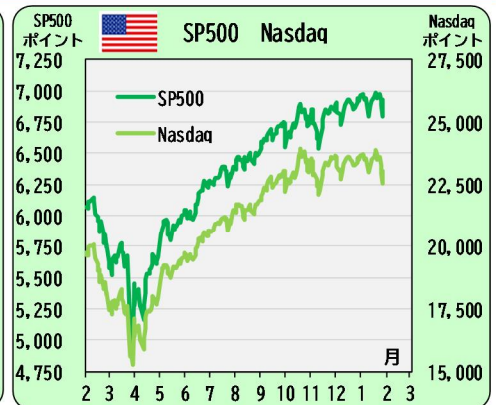
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
2/9(月)	毎月勤労統計(12月) 景気ウォッチャー調査(1月) 国際収支統計(12月)	
2/10(火)		米国: 国債入札(3年)
2/11(水)	祝日(建国記念日)	米国: 国債入札(10年) 米国: 雇用統計(1月)
2/12(木)	国内企業物価指数(1月)	米国: 国債入札(30年) 米国: 米国: 中古住宅販売件数(1月)
2/13(金)	日銀田村審議委員講演(神奈川経済同友会)	米国: CPI(1月)



③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。